

部下のやる気に火をつけるほめ方(第8回)

どのようにほめるか(後編)

2022.02.01



前回の記事では、ほめ方のポイントを紹介しました。ただし、全部のポイントを盛り込んでしまうと効果が薄れます。ここでは、ほめる際のより効果的なアクションについてお話したいと思います。

メリハリをつけてほめる

人は善かれあしかれ慣れる生き物です。何度も何度も同じような調子でほめられていては、いくらほめる言葉や内容が素晴らしいとしても部下の耳が慣れてしまい、心に届かない可能性があります。

そのため特に強調してほめたいポイントや伝えたい内容がある場合には、その部分にフォーカスして、「声を張ってほめる」「ほめるポイントの前後はあえて小さい声でほめたり、話す速度を遅くしたりする」「大きめなジェスチャーや豊かな表情を付けてほめる」など、ポイントごとにメリハリをつけてほめるとよいでしょう。

もちろん過剰に抑揚をつけたり、突然大きな声でほめたりするのは芝居がかって見えるだけです。メリハリをつけたい場合には、くど過ぎず、派手過ぎず、唐突になり過ぎないように全体のバランスを考えましょう。

ほめることは効き目の強い薬のようなもの。確かによく効くのですが、むやみにほめるのも考えものです。部下の成長につなげたい気持ちを込めてほめるときは、単なる思いつきでそうするのではなく、よく考えてほめたほうがいいのです。

ほめる話の流れ全体をビジネス文章に置き換え、「起承転結」や「序破急」を意識するイメージで構成すると、話の流れを作りやすくなるかもしれません。

タイミングよくほめる… 続きを読む